

視聴覚教育

NO. 341

発行日

20.3.21

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

この一年の歩み

学習情報指導員 名倉嘉章

今年度特筆すべきことは、藤川小学校を会場に、愛知県学校視聴覚教育研究大会が開催されたことである。岡崎市の教育におけるICT活用について、藤川小学校の公開授業の子供の姿と、情報教育推進委員会、現職研修委員会学習情報部、視聴覚ライブラリーの組織連携によるICT活用支援についての研究発表から、市内外に大いにアピールすることができた。

実践活動面では、全国視聴覚教材コンクールにおいて、文部科学大臣賞1作品を含め、3作品が受賞、県コンクールでも、9年連続で最優秀賞（県教育長賞）ほか計10作品が入賞した。視聴覚ライブラリー主催の「子どもビデオ教室」の事業も定着し、子供たちの制作した番組は、いぶすき子ども映像祭や子ども科学映像祭など、全国規模のコンクールでも多数入賞した。また、視聴覚ライブラリー主催「ふるさと岡崎メディアコンクール」にも130点を超える作品が応募された。

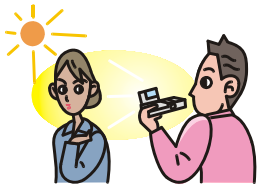
研究実践においては、「インターネット活用

視聴覚用語
『エデュテイメント』
ゲームなどの娯楽要素を盛り込み、楽しみながら学習できる教育用ソフトウェア。「エデュケーション（教育）」と「エンターテイメント（娯楽）」を組み合わせた造語。

教育実践コンクール」（文科省主催）において、視聴覚ライブラリーの取り組みをまとめたレポートが実行委員会賞を受賞した。また、情報教育推進委員会が羽根小学校において検証実践授業を行い、ハイビジョン映像を活用した先進的な授業が行われた。情報教育推進委員会も、松下教育研究財団の助成を受けて研究を進めた。一方、基盤整備も進められた。7月、3月には、小学校のPC教室30校の更新が行われた。10月には、中学校4校の校内LAN工事に伴うPC配備および中学校1校の職員室内LAN整備に伴うPC配備により、全中学校における職員1人1台PC環境を実現した。同時に、ネットワーク配信型コンテンツも充実させ、授業での活用が進んでいる。

こうした状況に合わせ、情報教育推進委員会が、市全体のマルチメディア開発事業を推進した。ネットワークで利用可能な資料の収集・開発、利用実践授業の実施、教員研修等を企画・運営してきた。

今年度もこのように多方面で素晴らしい成果を残すことができた。



|| 視聴覚あれこれ ||
平成19年度（第52回）

愛知県自作視聴覚教材コンクール

審査結果発表（市内関係分）

●学校教育部門

【ビデオ教材】

優秀賞

「自然が育てるおいしいお茶
〓 宮崎のお茶づくり〓」
自作教材制作委員会C班

優良賞

「サムライ三河武士プロジェクト
〓 あるベンチャー企業の挑戦〓」
自作教材制作委員会A班

佳作

「Joyful English
〓 岡崎戦隊ミソレンジャー〓」
自作教材制作委員会E班

「パン工場ではたらく人びと」
自作教材制作委員会B班

「里山に生きるトンボたち
〓 川の環境を守る〓」
自作教材制作委員会D班

【コンピュータソフト・マルチメディア教材】

最優秀賞（教育長賞）

「流れる水のはたらき
〓 岡崎の川を探検しよう〓」
自作教材制作委員会F班

優秀賞

「地図博士になろう！」
自作教材制作委員会G班



優良賞

「九九の友」

根石小学校 竹内 昭博

●生涯学習部門

【ビデオ教材】

優良賞

「挙母線の思い出」岡崎市渡町

倉橋 春夫

「宝剣岳に咲き競う高山植物」

岡崎映像サークル

矢野 正義

第34回 (平成20年度) 実践研究助成

助成先決定! (岡崎市関係)

平成20年度松下教育財団の実践研究助成に、岡崎市から応募した次の3団体が選ばれました。研究の成果が期待されます。

●岡崎市立秦梨小学校

「視聴覚、情報通信機器を活用して、ふるさとの里山を観察・記録し、発信する

〜ふるさと、秦梨を愛する子をめざして〜」

●岡崎市立甲山中学校

「伝えあう」ことから始まる「思いやり」あふれる学校づくり

「視聴覚メディアの効果的な活用を通して、生徒が積極的に参加する日々の授業へ〜」

●岡崎市情報教育推進委員会

「一人1台のノートパソコン利用環境でのICT活用の研究

「普通教室・家庭におけるPC個人活用の可能性を探る〜」



II 実践報告 II

キャッシュサーバーの利用で

調べ学習の効率化を図る

葵中学校 伊藤 研治

葵中学校では、本年度、毎週2回、昼放課にパソコン室の開放を行っている。インターネットの検索や教材ソフトが利用でき、特に、調べ学習が集中する時期には、パソコン室の開放は人気がある。ただ、利用が集中するので、どうしても、ネットワークの速度が遅くなりがちである。そこで、キャッシュサーバー「ネットシェアイカー」が活躍する。これは、市内の全小中学校に設置されているが、閲覧したウェブサイトをキャッシュして置く装置(一時的にデータを保存し、同じサイトを閲覧しようとしたとき、ネットからではなく、サーバーからデータを供給する)である。あらかじめ教師がそのサイトを閲覧しておけば、自動的にキャッシュされ、次回からの閲覧が高速化される。



「職業調べ」の学習では、「十三歳のハローワーク 公式サイト」を、あらかじめキャッシュしておいた。そのため、十五分間のパソコン室開放でも、ストレスなくインターネットを利用することができ、生徒は意欲的に資料集めに取り組んでいた。児童・生徒がインターネットを利用して調べ学習に取り組む時には、前もって教師が関係するウェブサイトを検索し、キャッシュサーバーに登録しておくことが、授業の効率化につながると実感した。

ライブライブラリーだより

第8回インターネット活用教育実践コンクール

岡崎市視聴覚ライブライブラリーが

実行委員会賞を受賞!

文部科学省・インターネット活用教育実践コンクール実行委員会主催、総務省・経済産業省ほか後援の第8回インターネット活用教育実践コンクールにおいて、岡崎市視聴覚ライブライブラリーの「地域視聴覚ライブライブラリーからの発信」が、第1次書面審査、第2次ビデオ審査を経て、インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞に入賞しました。表彰式は、3月19日に東京で行われます。

●新規購入DVDの紹介

「ゲータイ・ネット社会の落とし穴」

小・中学生対象 全3巻 (各25分)

「夜回り先生 水谷修のメッセージ」

中学生、高校生対象 全2巻 (各90分)

「プロフェッショナル 仕事の流儀」

中学生、高校生、一般対象 全10巻 (各43分)

「スプーンおばさん」

幼稚園、小・中学生対象 全6巻 (各120分)

その他、DVD 58本・ビデオ 51本が、4月から利用できます。

【編集後記】

今年度も岡崎の視聴覚教育の取り組みについてお伝えすることができました。多くの実践例や情報をお寄せいただきありがとうございます。来年度も一層の充実を図っていきます。